

## 施策評価調書（主要施策別）

様式 1

基本目標	行き届いたサービスと高い技術力でお客様に奉仕する水道	整理番号	2 - (4)
主要施策	次世代への技術の継承	施策主務課	計画課
施策の趣旨	県内水道の中核にふさわしい高い技術レベルを維持し、安全で良質なおいしい水を将来にわたってお客様へお届けできるよう、長年培ってきた県営水道の技術力と現場対応力を効果的な方法で次世代職員に継承していきます。		

## I 施策を達成するための主な取組と達成状況

	実践的な技術研修の実施	担当課	計画課
	<p>(取組の概要)</p> <p>中堅・若手の技術職員を中心に、施設等の設計から建設までの仕事に必要な知識や、日常の管理運営業務に必要な技術などが効果的に習得できるよう、経験豊富な技術職員の知識や体験を活かした実践的な研修を実施します。</p> <p>(当年度取組計画の概要)</p> <p>ベテラン職員が減少していく中で、水道の技術や震災時・漏水事故等の緊急時対応など現場対応力を確保していくために、若手中堅職員の育成に比重をおき、座学研修はもとより、体験を通じて技術などを習得する実地研修をより充実させた研修を実施します。</p> <p>当初予算額 2, 228千円、決算(見込)額 2, 118千円</p>		
	達成指標	技術職員(再任用職員を除く)のうち当該年度に研修を受講した延べ職員の割合	内部評価
	達成目標	50%	a : 達成している b : 概ね達成している c : 未達成だが進展している d : 進展していない
	達成実績	110% (= 525 / 478 = 受講者数 / 技術職員数)	前年度評価 a
取組 ①	<p>(評価結果の説明・分析)</p> <p>研修結果アンケートによる意見・要望を研修内容に反映させ、受講者の経験レベルに合わせた段階別研修の実施等、*受講機会の拡大と内容の充実に取り組んだことにより、達成目標を大きく上回る実績に繋がったと考えています。</p> <p>上記研修受講者のうち、若手中堅職員(主査以下)の受講割合は85% (= 446 / 525 = 若手中堅受講者数 / 受講者数)であり、平成25年度と同様に、技術の継承は着実に進んでいると考えています。</p> <p>※受講機会の拡大</p> <p>「技術講座研修」は、当局発注工事の中から施行中の工事現場で、最新技術や特殊工法による現場を選出し研修会場として行っています。</p> <p>平成26年度は、2工事現場で計6回の現場研修を開催し受講した職員が増えました。 (平成25年度: 1工事現場1回で16名 平成26年度: 2工事現場6回で82名)</p> <p>工事での工法や施工管理等を先に講義し、その内容を実際に現場見学することにより、実践的な現場管理や、最新の工法等について学ぶことで、技術職員としての現場力向上を図りました。</p>		

	体験型研修施設の整備検討	担当課	計画課
取組 ②	(取組の概要) 地震や事故等の非常事態において、中堅・若手の技術職員が現場対応の即戦力として活動できるようにするためには、管路の修繕やバルブ操作などの実体験が欠かせないことから、体験型施設の整備について検討します。		
	(当年度取組の概要) 平成 25 年度に独自の施設整備を当面見送るとした方針決定により取組は終了しましたが、体験型研修については取組①の中で、水道技術が総合的に学べる東京都水道局の研修施設を利用して行っています。		

II 施策の成果

成果指標	①技術研修の理解度 (研修直後に、どの程度理解できたかを、アンケート調査によって確認) ②継承技術の実践度 (研修受講から数ヵ月後に、研修内容を自己の業務にどの程度活用できているかを、アンケート調査によって確認)	内部評価	
成果目標	① 79% ② 75%	a : 成果が出ている b : 概ね成果が出ている c : 成果が小さい d : 成果が出ていない	
成果実績	① 82% ② 75%	前年度評価	a
(評価結果の説明・分析) 「技術研修の理解度」と「継承技術の実践度」はともに、平成 25 年度に引き続き目標を上回る水準を維持しています。 これは、研修結果アンケートに寄せられる受講者からの意見を反映し、テキストの見直しや講義内容の充実を図ったこと、また、より実践的な研修として受講者レベルに合わせて基礎編や応用編などに分けて実施する取り組みにより目標を達成できたと考えています。			

III 達成状況及び成果を踏まえた今後の進め方 (施策の方向性)

・各取組の進め方 取組①実践的な技術研修の実施 (継続：引き続き、受講者アンケート結果等を踏まえ、きめ細かな研修実施体制を充実させることや、実践的な体験型研修を取り入れ、現場力向上を図り、更なる水道技術の継承に取り組んでいきます。体験型研修については対象を初任者から中堅技術職員まで拡大し、浄水場の運転シミュレーターを用いた運転演習や、大口径耐震管の接合実習など、水道技術の進歩に応じた現場力向上が図れる研修を進めて行きます。) 取組②体験型研修施設の整備検討 (廃止：平成 25 年度に独自の施設整備を当面見送るとした方針決定により取組を終了しました。) ・施策の方向性 引き続き、長年培ってきた県営水道の技術力と現場対応力を効果的な方法で次世代職員に継承していくための取組として、実践的な技術研修及び体験型研修を推進していきます。	内部評価	
	a : 継続 b : 一部見直して継続 c : 休止・廃止	
	前年度評価	a

内部評価機関 (経営戦略会議) における評価	(総合的な意見等) 自己評価を妥当と認める
	(特記事項) なし